

# DPC特定病院群に認定

## 研修医受け入れ評価

### 製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)はこのほど、高度な診療機能を持つ「DPC特定病院群」に認定された。胆振管内では初の認定となる。前田病院長は「今後も極めて質の高い急性期診療と、質の高い臨床研修病院を目指したい」としている。(松岡秀宜)

厚生労働省は、疾患別に診療報酬を定額にする診断群分類包括評価(DPC)を導入している全国1730病院のうち、大学病院と同等の診療機能や人員体制があり、急性期医療を実践している医療機関について「DPC特定病院群」として指定している。

本年度は全国155医療機関が認定。このうち、

道内の認定は七つだが、医療機関が集まる札幌市以外で認定されたのは製鉄記念室蘭病院、旭川赤十字病院、JR帯広厚生病院のみ。

「DPC特定病院群」の認定には、①診療行為の認定には、①診療行為・平均在院日数・疾患構成などの診療活動や、重症患者を短期間で集中的に治療するかなどの「診療密度」②1床当たりの

臨床研修医の採用数などの「医師研修の実施」③難易度が高い手術や内科系の高度な技術を伴った特定内科診療(計25疾患)などの「高度な医療技術の実施」④重症患者に対する診療の実施①の評価基準がある。

このため、認定に関しては「極めて客観的なデータに基づいて判断される」(前田病院長)。特に医師研修の実施に関しては、計83人の初期研修医を受け入れている道内トップクラスの実績や、臨床研修医の受け入れが過去10年間で7回フルマツチした内容なども評価された。

「DPC特定病院群」に認定された医療機関が地域にあることは、外科系・内科系ともに、複雑で難易度が高い重症患者の治療をはじめ、高度急性期医療を地域内で完結できている裏付けにもなるという。

一方、同病院は来年度の研修医募集定員が、本年度から2人増の計9人となる予定。「地域における医師確保の面でもこれまで以上に貢献できるのでは」としている。



「DPC特定病院群」に認定された製鉄記念室蘭病院